

図書館だより

令和2年 9月号

愛媛県立小松高等学校 図書委員会

酷暑だった夏が過ぎ、夕方から鳴き始める鈴虫の声と朝晩の寒さに秋を感じる季節になりました。また食欲の秋、読書の秋でもあります。さて、中間考査が近くなってきました。3年生の皆さんにとっては、いよいよ就職試験・進学試験が本番となります。持てる力を十分に発揮して、進路実現ができますようにお祈りいたします。

さて、秋の夜長は読書に最適の季節です。先月号でも紹介しましたが、新刊本が入っています。是非とも勉強の合間に、本を借りに図書室に来て下さい。

☆「新刊本より」

人気作家の最新作です

「きみが夏を走らせる」 瀬尾まいこ 作 新潮社

ろくに高校も行かずふらふらしている俺が、何故か先輩の小さな子ものの面倒をみる羽目に。泣きわめかれたり、ご飯をたべなかったり、最初は振り回されっぱなしだったけど、いつしか今まで知らなかった感覚が俺の心を揺り動かした。駅伝小説『あと少し、もう少し』に登場した不良少年・大田の、ひと夏の出会いと別れの物語。



青学駅伝選手が実践「勝てるメンタル」

原晋・根来秀行 著 KADOKAWA

青山学院大学の駅伝選手やトップアスリートも実践する本番に強くなるヒントを、この本から学びませんか？

挿絵がとってもかわいい

☆☆☆☆秋の夜長に読んで欲しいこの一冊☆☆☆☆

「星の王子さま」 サン＝テグジュペリ 作 (フランスの作家で飛行士)

飛行機の故障で砂漠に不時着したぼくは、遠い星から旅をしてきた「星の王子さま」に出会い、友達となる。旅を通じて様々な体験をした王子さまは、毒蛇の助けを借りて星に残してきたバラのもとに帰ってしまった。「僕が笑っていると思って夜空を見上げると、すべての星が笑っているように見えるよ……」と言って。

この作品は作者がリビア砂漠に不時着した経験をもとに書かれました。「たいせつなことは、目では見えない……」という言葉にドキッとさせられました。



2004 年本屋大賞受賞作品 「博士の愛した数式」 小川洋子 作 新潮社

(僕の記憶は 80 分しかもたない) とメモを背広にクリップでつけた天才数学者は、通いの家政婦の「私」と阪神タイガースファンの 10 歳になる息子に、世界が驚きと喜びに満ちていることをたった一つの数式で示した。……オイラーの公式。物語全体に流れる他者へのいたわりや愛情の尊さ、素晴らしさ、せつなさを感じます。数学の苦手の人にもお勧めの一冊です。



「木を植えた人」 ジャン・ジオノ 作 こぐま社



広野に一人木を植え続け、森をよみがえらせた老農夫、エルゼアール・ブフィエの物語。この世の中を本当に変えるのは、富や権力ではなく、少しのエゴイズムも含まない無償の行為であることが、読む人の心を打ちます。自然を見つめ直すことの大切さを考えてみませんか。

こころを彩る 「徒然草」 兼好さんとお茶をいっぷく
木村耕一 作 万年堂出版



江戸時代で大ベストセラーとなり、今や日本のみならず海外でも読まれている「徒然草」。本書は、古典の堅ぐるしさがなく、700 年の時を超えて、兼好法師の言葉がわかりやすいことばで、私たちに生きるヒントを語りかけてくれます。 (以下本書より引用)

川の流れのように、この世も、移り変わっていきます (第 25 段)

調子に乗って、ふざけると、大きな失敗をしますよ (第 53 段)

生き物の命を大切にしない者は、人間ではありません (第 128 段)

人の悪口や文句ばかり言っていると、お互いのためになりませんよ (第 164 段)

一時の判断の誤りが、一生の後悔になります (第 188 段)

☆ (お願い) ○ リクエスト本があれば、各クラスの図書委員に伝えてください。または図書室のリクエスト BOX に用紙を投入して下さい。

○ 本の貸し出しは 2 週間です。期限が過ぎた本は、返却して下さい。

